

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福祉会		
事業所名	紀三井寺苑		
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070101518&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作りと利用者とのコミュニケーションを大事にし、その人らしく暮らして頂けるよう職員一人ひとりが利用者の思いや気持ちを表せるよう支援しています。ふれあい教室、お茶会、デイサービスの行事にも参加させて頂き、買い物、散歩、ドライブ等の支援を行い気分転換を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が運営する特別養護老人ホームと同一敷地内にあり、法人主催のふれあい教室は地域の子どもたちとの交流の機会となっている。また、ホーム周辺のハウス栽培の農家の人々とは日常的に言葉を交わす関係が持たれている。コミュニケーションが困難であったり身体機能が低下した入居者が多くなっているが、自分でできることは自分でするというを基本に、少しでもその人らしい暮らしができるよう、職員全員で日々のケアに取り組んでおり、重度化してもトイレで排泄できることを特に重視している。前回の外部評価の後トイレの改修がなされ、以前はスペースが狭く車いすでの使用が困難であったが、改修後は使用しやすくなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に職員全員で理念を唱和し共有を図り、ミーティングでは理念に基づき入居者のケアについて話し合っている。	法人の理念とは別に、「地域の方とふれあいを持って『その人らしく』笑顔で楽しく暮らす」というホーム独自の理念を作り上げている。理念は毎朝のミーティングの時に職員全員で唱和し、確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育所の運動会等に参加する。事業所主催のふれあい教室、夏祭り等の行事に参加される地元の人々との交流に積極的に取り組んでいる。	地域の保育所の運動会には毎年参加し、見学している。また、神社のお神輿が来てくれるという地域社会との付き合いがある。買い物の時や散歩の時には、地域の方々と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や家族様にデイサービスと共同で介護教室を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では包括委員、民生委員、家族様が自由に意見を出し合い意見や要望をひとつずつ実現できるよう努力している。	概ね2カ月に1回の割合で開催され、市職員の参加はないが地域包括支援センターの職員、家族や民生委員からの意見を聞いている。防災については関心が高いが、意見が出やすい議題の選定に困ることもある。	職員や家族へのアンケート実施等から運営課題を抽出し、議題とすることも望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者ととの情報交換は運営推進会議に留まっている。	市の担当者とは介護保険の手続きの際に顔を合わす程度で、運営に関する意見交換はできていない。	運営推進会議への市の担当職員の参加についても働きかけていくことが望まれる。他のホームの状況等についても情報提供を求め、行政からの意見も運営に活かす事を期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアには取り組んでいる。日中は鍵をかけず安全に配慮しながら自由な暮らしを支援している。	日中玄関の鍵は掛けず、自由に出入りができるようになっている。職員は、事業所・法人の勉強会でも学習し、身体拘束についてはミーティングでも話し合い、確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員虐待防止について努めている。		

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修では学ぶが活用する支援はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用料金、重度化に伴うリスク、事業所のケアに関する取り組みや考え方を十分な時間をとって丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様の参加を呼びかけ外部者へ意見を表せるようにしている。	年に2回家族会を開催しているが、家族からはあまり意見は出ていない。花見などの行事にも家族に参加の案内を出しているが、参加人数は少ない。	多くの家族が参加しやすいような日程を検討するとともに、家族同士が打ちとけて共に意見が出しやすいような雰囲気づくりなど、家族会の持ち方に工夫が求められる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見を聞くと共に個別に要望等を問いかけている。	ミーティングでは職員の意見を聞くよう心がけている。出された意見は積極的に取り入れ、実践し評価を行っている。研修や勤務時間など、職員自身の希望についても、自由に意見が述べられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課表にて実績の評価、今期の目標を記入し自由記述にて条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される講座、研修会にはなるべく多くの職員が参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や同法人の相互訪問の活動を通じサービスの質を向上させていく取り組みに努めている。		

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接で本人の生活状態や心身の状態を把握し、家族様より年代別の背景シート、好きなもの、嫌いな物シートを記入して頂き本人の事を把握し安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に困っている事、不安な事、要望等を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様の思い、状況を確認し必要な支援を見極め場合によっては他のサービスの利用を含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしながら四季を感じ喜びを共に共用し、本人から学んだり支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から本人の様子などを家族様にこまめに報告し家族様と一緒に本人を支えていけるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外にも知人や昔からの友人が尋ねて来ている。家族様への電話、外出時に馴染みの場所を訪問する支援に努めている。	馴染みの関係を続けられるよう配慮しており、入居者の知人の訪問もみられる。買い物やドライブの時には、以前住んでいた所やよく通っていた所へ出掛けるなど、馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を見据えた上で利用者同士が上手く係りあえるように支援している。		

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた後も、職員が時々面会に行ったり、電話等で連絡を取ったりしている。退所後も家族さんの相談を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で本人に問いかけたリ、上手く伝えられない方には、その時々表情や言動から推し量るなどして、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。家族の情報も参考にして、職員同士で検討している	その人の思いを大切にしながら、希望に添えるような支援を心がけている。思いがうまく伝えられない入居者の場合は、家族からの情報も参考にしながら、その人の表情や行動に気を付け、希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方について、予めシートに記入して頂いたり、折に触れて家族や利用者本人から聞き取ったりして、少しでも多く把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活を1日の流れの中で捉え、心理面の視点や、本人の出来る事・分かる事に注目して、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の思いや意見を聴き、課題となる事を職員間で話し合い、介護計画に活かしている。	本人の希望や家族からの情報を参考にしながら、介護計画を作成している。内容も具体的にきめ細かく書かれており、一人ひとりに合った内容となっている。定期的なモニタリングは毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者それぞれの水分量、睡眠時間、排泄量等、身体的情報や暮らしの様子などを記録し、職員間で情報を共有しており、見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、特変時でも訪問診療や訪問看護を利用しながら、出来る限り本人や家族の望む生活を継続していけるように支援している。		

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるよう警察・消防などと連携を取り、また少しでも楽しく過ごせるよう、学校や地域のボランティアへの協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望によりかかりつけ医を選んで頂いている。家族と協力し、通院介助を行ったり、往診に来て貰うなど、複数の医療機関との関係を密にして、適切な治療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望する医療機関を選んでいる。受診は往診が多く、通院が必要な場合はホームの職員が送迎し、受診支援を行うケースも多い。家族が立ち会える時には家族の同行も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の施設の看護師や訪問看護師と気軽に相談しながら日々の健康管理や状態変化に応じた対応を行なえるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、医療機関に本人のケアも含めた情報を提供すると共に、出来るだけ見舞うようにしている。また、回復状況等は、家族と情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には早い段階からグループホームとしての現状(重度化しても出来るだけ対応したいとの思いはあるが、現在の職員体制では限界がある事)を本人・家族に説明し、その場合でも希望すれば併設の施設への入所や他施設・病院へ移るなど、いくつかの選択肢があることを伝えている	サービス利用時に、重度化した場合の対応も含め、本人や家族と十分な話し合いを行っている。重度化した場合は特別養護老人ホームへの入所への希望が多いため、過去に看取りをしたことはない。状態が変化した場合は、その都度家族と話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に他部署合同で訓練を行っており、グループホーム内でも勉強会をして実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、避難訓練講習会を設けている。職員には、災害時の役割分担をきちんと決めている。	避難訓練は年2回職員で実施している。法人全体が災害時の避難場所にもなっていることもあり、避難経路の確認や災害時の役割分担も整備されている。備蓄は法人の特別養護老人ホームで管理している。	

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	本人の気持ちを大切に言葉かけを行っている。思いがうまく伝えられない場合でも、言葉かけを工夫し本人の気持ちが引き出せるような支援を行っている。個人情報のファイルもスタッフ室にきちんと管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ選択日を毎月設けどちらか選択できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望や要望に耳を傾けた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1回美容師の訪問があり希望者は希望した髪形に切ってもらえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望を聞きながら職員が作っている。職員と語りながら一緒にの食事を楽しんでいる。	メニューは入居者の希望を聞きながら職員が考えている。買い物や調理、後片付けはできるだけ入居者と共に行えるように働きかけている。食事は職員も同じテーブルにつき、楽しく会話をしながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量は把握している。食事量、栄養バランスに注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けポリデント洗浄のケアをしている。		

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせ負担にならないような誘導、声掛けを行っている。	トイレで排泄できることを大切に考えて取り組んでいる。紙おむつやポータブルトイレを使用しているが、個々のチェック表を使い、排泄リズムに沿った声かけや誘導を行って、気持ちよく排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、便秘予防に水分強化や散歩等の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はできるだけ利用者の入りたい時間やタイミングで入浴して頂けるよう支援している。	入浴は毎日実施しているが、入浴できる時間は、職員体制の関係から午前も午後も2時間程度に限られている。入浴を拒否する入居者には声かけの内容や時間を工夫し、気持ちよく入浴できるよう支援している。	入居者の習慣や好みに配慮し、できる限り本人が望む時間帯に入浴できるような体制作りを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動するように促し生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬内容に薬の目的、副作用を提示し職員全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に楽しみを持ってもらえるように、外食、ドライブ、散歩等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物等日常的に外出できるように支援している。	日常的に買い物や散歩にでかけているが、一人ひとりの希望には対応できていない。月に1回は、3人程度のグループで外食にも出かけている。また桜やつつじの花を見に行ったり、花火を見に出かけることもある。	一人ひとりの希望に沿った個別の外出支援もできるようになっていくことを期待する。

【事業所名】紀三井寺苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方はお金を持たれているので買い物に行けるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるように配慮し、又季節感等も取り入れリビング内の調整を行っている。	リビングには季節の花が活けてある。窓からの日差しもブラインドでこまめに調整するなど、採光にも配慮している。テレビの近くにはソファや畳敷きのベッドがあるがあまり利用されず、日中はほとんどの入居者がテーブルについている。	共用空間はワンフロアで、プライバシーの守られにくい作りであるので、ソファの配置を変えたり、畳のスペースを作るなど、本人が思い思いの場所でくつろげる空間づくりを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思い過ごせるような居場所作りの工夫は随時行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様に協力して頂き好みの物を持って来て頂いている。	居室には洗面台、クローゼット、ベッドが設置されている。本人の使い慣れた物や好みの物が置かれ、居心地良く暮らせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力に合わせた個別援助計画に沿って対応、工夫をしている。		